



TBSテレビ、TBSラジオ&コミュニケーションズ 2009年度合同入社式について

4月1日午前10時から、放送センターAスタジオで、TBSテレビ、TBSラジオ&コミュニケーションズの2009年度合同入社式が行われ、TBSテレビ石原社長、TBSR&C余田社長ほか幹部が出席、新入社員の門出を祝福しました。

■両社の新入社員数

TBSテレビ 41名（内キャリア採用7名）

TBSR&C 3名（内キャリア採用1名） 計44名

■石原社長訓話

皆さん、入社おめでとうございます。多彩な才能と清新な感性をお持ちの皆さんをTBSの新しい仲間としてお迎えできて、大変喜ばしいことだと思っています。私も含めて、皆さんの先輩に大いに刺激を与えていただきたいと思います。

ご承知のとおり、世界的な経済危機そして景気後退によって、放送業は大変厳しい状況に直面しています。こうした中、2011年にはテレビのデジタル化の完全移行を実現しなくてはなりません。デジタル化は大きな設備投資、費用負担を強いられているものですが、一方で、制作力を活かして多角的な収入源を得るチャンスでもあります。そういう意味で放送業界は構造的な改革を迫られており、大きな転換期を迎えています。

今日4月1日は、我々TBS自体も開局以来の記念すべき日となりました。従来の「東京放送」がホールディングス会社となり、「TBSテレビ」が放送免許を持ち、今日から名実ともに放送局としてスタートすることになりました。そうした記念すべき日に皆さんは入社されたわけです。

当然のことながらTBSは放送事業を中核とした、最強コンテンツを創り出す最良のメディアグループを目指しています。何よりも視聴者の心に響く良い番組を作っていくことが、我々に課せられた使命であると思っています。

この第二の開局ともいえる記念すべき日にあたり、東京放送創業以来、我々の先輩が築き上げてこられた、「TBSらしさ」「TBSのDNA」というものを改めて考えてみました。

TBSは開局以来、『私は貝になりたい』など数々の名作ドラマを世に送り出してきました。その時代時代の社会状況に真摯に向き合って話題作を作り上げてきたのだと思います。また『8時だヨ！全員集合』や『ザ・ベストテン』といった新しい番組も次々と世に送り出し、多くの人に感動そして心の癒しなどを提供してきました。報道機関としても、日本で初めてキャスターニュースを創り、田英夫の「ハノイレポート」などを放送し、多くの視聴者の信頼を獲得してきました。スポーツでも来週から石川遼君がでるマスターズが始まりますが、かつては全英オープンなど世界最高峰の試合を放送してきました。こうした意欲が今年ベルリンで開かれる世界陸上へ引き継がれていると思います。

エンターテインメント、スポーツ、報道とさまざまな面で、戦後の荒廃期から現在に至る

まで、民主主義社会を維持するために、放送は大きな役割を果たしてきました。その中でもTBSの先輩達は悪戦苦闘しながらも先駆者的な役割を果たしてきました。こうした伝統を築き上げてきたのは、放送に関する熱い情熱と高い志だと思っています。そういう意味で「TBSらしさ」や「TBSのDNA」を考えてみると、常に新しいものに挑戦する先進性と、良質な番組を創る志にあるのではないかと思います。

入社にあたって、その熱い情熱と志を決して忘れないでいただきたい。それこそが、良い番組を作り出す源、源泉だと思っているからです。最後にテレビ、ラジオという放送メディアは、想像以上に大きな影響力を持っています。そうしたことを謙虚に胸に受け止めて業務にあたってほしいと思います。

オールTBSの精神で、心をひとつにして、最も愛される、信頼される放送局を目指して、共に頑張っていきましょう。今日は、本当におめでとうございました。

■ 余田社長訓話

入社おめでとうございます。そして今日皆さんと出会えたことを大変うれしく思います。TBSグループの一員として皆さんは仕事をしていくこととなりますが、これから大変多くの出会いがあると思います。是非今後の出会いを大切に、そこから多くのことを必ず得ていただきたいと思います。

私はちょうど 30 年前、皆さんと同じ席にいました。当時はテレビ、ラジオ同じ会社で、一般 15 名、技術 5 名、アナウンサー 2 名の総勢 22 名が入社しました。今、30 年経って思い起こすと、もし我々同期一同に財産があるとすれば、30 年間多くの人と出会ったこと、そしてその人たちから直接的また間接的に教わったことだと思っています。

TBSは 1951 年にラジオ東京として始まり、その 4 年後 1955 年にテレビが始まりました。私が入社したのが 79 年ですから、その時には既に 20 何年経っていて、テレビ、ラジオ共に成長期そして安定期に入っていた時代でした。安定期に入って、約 20 年間はテレビ、ラジオに対する価値観、仕事の内容はそう大きく変わらなかったと思います。それがここ 10 年、特に 5 年は変動がめまぐるしいと思っています。これからもっともっと大きな変動が起きてくると思いますが、その変動に対応していきましょう。対応するということは自分をもってチャレンジするということです。

失敗を恐れず、うまくいかなかったとき人のせいにしない。人のせいにしたり、周りのせいにすると改善する能力を失います。改善する当事者ではなくなります。うまくいかなかったときには、自分の悪かったところを考えて次へ成長していくということを心がけてください。最後に皆さんと出会えてよかった。大変うれしく思います。

以上